

ニュージーランド 初のバイオ燃料試験船が無事到着

Zespri Media Release 2024年6月11日

ゼスプリの国際海運パートナーの1つであるフレッシュキャリアーズ(FCC)社(本社東京)は、香港とニュージーランドの間を運航するチャーター船でバイオ燃料を使用した航行試験を成功裏に完了した。この試験の目的は、バイオ燃料を燃焼させた際の船のエンジンの性能をテストすることであった。

カカリキ(Kakariki)号は先月末に香港でバイオ燃料を積み込んだ後、南下を開始し、週末にニュージーランドのタウランガ港に到着した。この船は、使用済みの食用油から作られたバイオ燃料の混合物で駆動された。カカリキ号は、ニュージーランドではバイオ燃料が入手できないため、香港でバイオ燃料を積み込んだが、もしニュージーランドでバイオ燃料が入手可能になれば、ゼスプリのチャーター船がこのCO₂排出量の少ない燃料を燃やす機会が増えると見られる。

ゼスプリのジェイソン・テ・ブレイク最高執行責任者(COO)は、業界が低排出輸送などの革新的なソリューションを通じて脱炭素化と将来への備えを進める中、FCC社によるバイオ燃料の試験は、共同で行う一歩前進であると述べている。(以下、特記した場合を除き「」は同氏の発言)

「ニュージーランドの輸出主導型経済において海運業は重要な役割を果たしており、ニュージーランドの貿易の重量ベースで99%、金額ベースで約80%を運んでいる。世界的には、このセクターは世界の貿易量の約80%、世界の貿易額の70%を占めている。」

「ゼスプリのキウイフルーツは毎年、世界50以上の市場の消費者に出荷されている。国際輸送は、ゼスプリの全世界での果実販売にかかる排出量の約43%を占めており、他の一次産品輸出事業者と比較して排出量に占める輸送の割合が大きい。これはゼスプリの生産段階の排出量が少ないためである。去年はシーズン中に57便のチャーター船と1万3,300個のコンテナを使用し、61万9,200トン以上のニュージーランド産キウイフルーツを市場に出荷した。」

「ゼスプリは、輸送時の排出量を直接削減する能力が限られているため、FCC社などの主要な海運・流通パートナーと協力して、輸送と物流の効率を高め、低排出燃料への移行を進めている。」

「FCC社と行ったバイオ燃料試験は重要な前進であり、カカリキ号が航行中ずっと監視され、予期せぬ技術的問題なしにバイオ燃料がうまく機能することが確認されたことで、両社にとって重要な技術的知見が得られた。タウランガ港に無事に到着したのは素晴らしいことだ。」

FCC社のコガ・トシユキ氏は、同社初のバイオ燃料試験船であるカカリキ号がタウランガ港に無事に到着するのを見届けたことを誇りに思うとして、「ゼスプリとは、この試験の実施について数カ月をわたって協議を続けてきたが、今後、弊社の他の船を使用したバイオ燃料の試験をさらに進めることに期待している。また、今シーズンはゼスプリのキウイフルーツを市場に輸送する北上航路の試験も検討している。バイオ燃料のサプライチェーンは複雑であり、安定供給のためにはまだやるべきことがあるが、今回の実証実験はゼスプリとともに脱炭素化を進める第一歩である」と語った。

ブレイク氏は、「ニュージーランドは太平洋の南の端に位置しているため、低排出燃料の選択肢へのアクセスが課題であり、弊社の野心的な目標と取引先や消費者の期待に応えるために、より持続可能な燃料へのアクセスを強化するパートナーを積極的に探している。業界の脱炭素化と将来への備えの重要性を認識し、長年のパートナーであるFCC社と前向きに協力してきている。この試験は一歩の前進であり、将来的にゼスプリのキウイフルーツを世界中の市場に届けるため低排出燃料の導入に向けた道を歩むことができることを嬉しく思う」と述べた。